

夢に生かせる

Challenge to My Dreams



遠山職員と話す大川さん(左)

飼料の配合にこだわり肥育管理を徹底

畜産・あしたか牛

おおかわ よしみ

大川 善美さん(74)

沼津市西浦在住。「あしたか牛」約150頭を肥育すると共に、息子の泰秀さんと西浦みかを約1ヘクタール栽培。あしたか牛推進協議会の会長を務める。



厳しい状況でも品質の良い「あしたか牛」を生産

ミカン栽培と共に肉牛の肥育に着手

沼津市西浦で「あしたか牛」の肥育を行う大川善美さんは、大学卒業後にミカン農家の実家を継いで就農しました。当時はミカンの栽培地が少なく、高値で取り引きされていましたが、需要と共にさまざまな産地で栽培が始まり価格が下落。就農から10年経った頃に肉牛の肥育を始めました。

肥育へのこだわりと厳しい現状

「元々土作りに関心があり、牛ふ

ん堆肥がミカン栽培に生かせるのではないかと思って始めた」と当時を振り返る大川さん。

市場に自ら行き、子牛を厳選します。「委託せず、自分で選ぶことは、出荷時の品質全てが自分の責任になる。それでも自分の目で選び、責任をもって肥育したい」と語ります。あしたか牛推進協議会では遠方の食肉センターに行くことなく、枝肉の写真を見ながら競りを行う「デジタル取引」ですが、大川さんは年に数回は食肉センターに出向き、自身の目で枝肉の品質を確認しています。

さらに、飼料の配合にこだわりを持ち、麦・大豆・トウモロコシの量を細かく調整しています。そのよ

うな中、約2年前から世界経済の変動により飼料価格が高騰。「価格は3倍に膨れ上がった。安定した飼料はなく、地元のわらを集めるなどしてその場をし



あしたか牛

愛鷹山麓の絶好の環境で、丹精込めて育てられた風味豊かで柔らかい肉質を有するブランド牛です。牛の血液検査や畜舎の一斉消毒など多方面にわたって厳しい肥育管理を行い、「安全」と「おいしさ」にこだわりを持ち、生産者一人一人が自信と責任を持って肥育しています。

消費者からの評価が自信に

大川さんの「あしたか牛」は、愛知県で飲食店を営む息子さんのお店をはじめ、多くの店舗で使われています。「お客さんのおいしいの音がうれしい」と笑顔をのぞかせます。

「競りの際に高値で取り引きしてもらった時は自信につながる。良い評価をしてもらえよう今後も丹精込めて肥育管理を行っていきたい」と熱く語りました。

営農担当者から

とよま たかし
営農販売部 畜産課 遠山 隆司

大川さんは、あしたか牛推進協議会の設立メンバーとして25年以上「あしたか牛」を肥育しています。肉質向上への思いは熱く、肥育管理の改善に取り組んでいます。

JAは生産者に寄り添い、肥育から販売までを支援。販売促進や品質向上に同協議会と一丸となって支援していきます。

